

就き、独り暮らしをしていた。X-13年11月に抑うつ気分、意欲低下が出現し、近医精神科にて抗うつ薬を処方されたが症状は改善しなかった。その後約10年間は、うつ病として amoxapine, sulphiride など治療を受けていた。X-2年1月に被害・関係妄想、注察妄想が再燃し risperidone (Max 6 mg/日) を投与された。陽性症状は速やかに消失したが、同年9月からは実家に戻り自閉的な生活を送るようになった。X年7月から意欲低下、不安感が強まり、希死念慮が出現したため perospirone への置換を開始し、薬剤調整目的にて10月に当科入院した。入院時 perospirone 36 mg/日から開始し、11月に 48mg/日まで増量したところ、意欲、不安感、周囲への無関心さなどの陰性症状が著明に改善し、退院後は作業所へ通うまで社会性が回復した。

## 5 Risperidone により妄想とこだわり行動が改善した高機能自閉症の1例

江川 純・阿部 美紀・横山 裕一  
染矢 俊幸\*

新潟大学医歯学総合病院精神科  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
精神医学分野\*

自閉性障害は有病率が0.05～0.1%で、男女比は4～5:1と男性に多い。病因としては遺伝性の関与が強いと考えられており、一卵性双生児での自閉症一致率は60～80%であり、二卵性双生児での0～10%に比較して高値である。

症状は、①対人関係における質的な障害、②意思伝達の質的な障害、③行動、興味の限定された反復的、常同的な様式、の3つが挙げられる。治療としてはTEACCHに代表される構造化された療育プログラムなどの心理社会的治療や抗精神病薬やSSRIなどの薬物療法が試みられ、研究が進んでいる。

今回、我々は幻覚妄想を合併した高機能自閉症の症例に risperidone を使用した経験をしたので、若干の検討を加えて報告する。

症例は34歳男性、31歳頃より「元職場の女性

と結婚する」「仕事がうまくいかないのは盗聴されているから」など幻聴妄想が出現した。次第に幻聴妄想に影響された行動化が著明となり、当科に入院となった。

これまで自閉症に体系だった妄想を合併した報告はほとんどない。自閉症には言語障害を伴い、70%以上に精神遅滞を合併するため、稚拙な表現、思考内容から体系だった妄想まで至らないためと思われる。一方、高機能自閉症では周囲の些細な言動に過敏に反応し非現実的な思考内容や一時的なファンタジーを生じることがあるとの報告がある。本症例では、非現実的な願望充足的な奇異な思考を長期に訴え行動化を認めたため、それを妄想と捉え治療した。

幻聴妄想に対し risperidone を使用したところ、幻聴妄想の内容に変化はなかったものの行動化を抑えることが出来た。同時に自閉症のこだわり行動や対人交流にも改善がみられた。自閉症の社会性やこだわり行動などの中核症状にに対する薬物療法の報告は少ない。しかし、本症例のように症状の軽減を示す例もあるため、積極的に薬物治療を試みる価値があると考えられる。

## 6 精神科受診歴の有無による自殺者の特徴

阿部 亮・塩入 俊樹\*・西村 明儒\*\*  
染矢 俊幸\*

新潟大学医歯学総合病院精神科  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
精神医学分野\*  
横浜市立大学医学部法医学教室\*\*

自殺者の80～100%が何らかの精神疾患を有しているとされているが (Moscicki, 1997 他)、自殺者の生前における精神科受診率は、20～50%でしかなく (Henriksson ら, 1993 他)、わが国でも飛鳥井 (1994) の22.9%との報告がなされている。したがって、自殺者の30～80%は、精神疾患に罹患しながらも精神的な治療を全く受けていないことになる。これらの精神科非受診群をどのように精神科治療にのせていくかが、自殺予防の観点から重要である。しかしながら、これら